

令和6年（2024年）度行政評価シート【個表】令和 6 年 7 月 30 日

評価対象事業		評価者	文化財課長 鈴木 庸一郎	
教育-44	文化財公開活用事業	☐ 自治事務	主管課	文化財課
		☐ 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	2-(1) 歴史環境	施策の方針	2-(1)-①文化財の保護

1 事業の目的

対象	市民等
意図	市内に所在する文化財を公開・活用し、文化財の魅力を発信することで、郷土への理解及び文化財への愛着を深めるため。
効果	郷土への理解及び文化財への愛着を深めることにより、文化財を確実に後世へ伝えていく。

2 令和5年(2023年)度を実施した事業の概要

・遺跡発掘調査速報展、遺跡調査・研究発表会、発掘調査現地説明会、地下道ギャラリー50でのパネル展示を実施した。	
・鎌倉の埋蔵文化財27を刊行するとともに、過去に刊行した埋蔵文化財発掘報告書をインターネット上(奈良文化財研究所HP)で公開した。	
・第52回鎌倉市郷土芸能大会を開催した。	
・指定文化財標柱を1箇所、説明版を1箇所設置した。	

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和5年度		令和6年度	達成度
				指標(実績値/目標値) 事業費(決算/当初)(千円)		指標(目標値) 予算額(千円)	
01	出土文化財公開活用事業	講師謝礼 展示関連消耗品	遺跡発掘調査速報展 来場者(人)	292 / 400		1,000	73%
				1,015 / 1,220		1,116	
02	郷土芸能大会開催事業	郷土芸能大会開催関連業務委託	来場者(人)	372 / 300		300	100%
				452 / 568		716	
03	文化財公開活用事業	啓発冊子印刷製本費 文化財標柱等設置業務委託	文化財めぐり参加者	0 / 30		30	0%
				893 / 1,186		1,273	
		財源内訳	国県支出金	201 / 260		125	
			地方債	0 / 0		0	
			その他特定財源	18 / 30		30	
			一般財源	2,141 / 2,684		2,950	
		事業費の合計(千円)		2,360 / 2,974		3,105	
		人件費(千円)			11,394	7,793	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	2.0	1.0	1.3	1.5	1.0	
会計年度任用職員	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	出土文化財公開活用事業	遺跡調査速報展は、目標を下回ったが、同時期に歴史文化交流館でも開催しており、多くの来館者に最新の調査成果を紹介することができた。	展示や発表会を通じて市民等へ埋蔵文化財への理解が深まり、歴史的遺産と共生するまちづくりに資する事業である。	より多くの人に出土品を直に見ていただくため、速報展等の開催、展示手法のさらなる工夫が必要である。
02	郷土芸能大会開催事業	広報等もコロナ禍以前の規模で実施したこともあり、目標の来場者数を達成することができた。	地域で引き継がれてきた郷土芸能の保存や継承に繋がるもので、歴史的遺産と共生するまちづくりに資する事業である。	より多くの人に鎌倉固有の郷土芸能を知り、親しんでいただく機会の充実のため、開催手法の工夫が必要である。
03	文化財公開活用事業	文化財めぐりは、例年高齢者の参加者が大半を占めることもあり、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施しなかった。	地域の文化財への理解につながり、歴史的遺産と共生するまちづくりに資する事業であるため、妥当である。	市民等に、より効果的に文化財を知り、親しんでいただく機会を創出するため、従来の手法にとらわれない開催方法を検討していく必要がある。

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	2 事業費の削減が検討できる事業がある
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	2 外部化に向けて検討できる事業がある
	関連・類似する事業の統合はできないか	2 統合に向けて検討できる事業がある
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	2 民間によるサービスで代替できる事業はあるが、民間による提供が不足している
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入 △-1 今後、負担の導入を検討すべき事業がある
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	○.協働実施済 ○-2 市民等と協働して適切に事業を実施している
		協働実施済の場合のパートナー 鎌倉市郷土芸能保存協会 NPO法人鎌倉考古学研究所

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	☐ 拡充	☐ 改善・変更	☒ 現状維持	☐ 縮小	☐ 休止・廃止
・発掘調査現地説明会の開催、出土品の魅力的な展示手法の工夫、出土品貸出セットの充実など、文化財に触れる機会をさらに創出していく。 ・郷土芸能大会の開催方法を工夫し、数多くの人に郷土芸能に親しんでもらう機会の充実を図る。 ・文化財等の公開、情報発信については、IT技術の活用など、従来の手法にとらわれない、新たな技術の導入を視野に入れ、検討していく。					

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	郷土芸能大会の来場者数(人)						単位
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
より多くの市民等が郷土芸能を知り、理解を深める機会であるため。	目標値	300	300	300	300	300	300
	実績値	0.0	0.0	205	372		
	達成率	0.0%	0.0%	68.3%	124.0%		

指標(単位)	遺跡調査速報展来場者数(人)						単位
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
より多くの市民等が埋蔵文化財を知り、理解を深める機会であるため。	目標値	200	200	200	200	200	200
	実績値	0.0	0.0	527	292		
	達成率	0.0%	0.0%	263.5%	146.0%		

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	指定文化財件数(国・県・市)							
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	逗子市	三浦市
他市実績	608	111	51	59	149	122	33	41

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	
--------------------------	--